（広告）

企業の志魂（こころ）

―橘 三朗―

http://kigyonokokoro.com/

Vol.1221

歴史に人あり
人に志あり
企業に魂あり

2016.7.10

菊地歯車

「発展調和」を主題として 歯車専業の志を貫く

（秋山真之）は「知謀湧くが如し」と謳われた天才参謀。来襲するバルチック艦隊をことごとく沈めるという奇跡でも起きない限り実現困難な作戦の立案者であり、見事成し遂げた名指揮官だ。真之は戦いに臨んで兄好古の言葉を心に刻み込んだ。「主題のある人生を送る為に、人生は単純であるべきだ。余計なことを構わずに、ただその目的の為にだけ生きよ」。まさに真之は主題のある人生を貫いた。

菊地歯車㈱（代表取締役社長・菊地 義典氏）は、1940年（昭和15年）の創立以来、まさしく歯車の如く人の和を重ね、志を連動させ続けながら今日まで専業メーカーとして〝主題〟を貫いてきている業界出色の実力派企業。その主題とは「発展調和」というモットーに真打ちされたバランス経営に他ならない。自動車関連から建設機械、事務機器、産業機械、印刷機械、航空・宇宙まで、幅広い領域に信用と実績を培い、それが堅実経営の秘訣であり、強みでもある。オンリーワンの歯車づくり、海外進出をすることなく日本国内で…など、余計なことを構わず〝歯車ひとすじ〟に、ひたむきに誠実に取り組んできた技術力の確かさこそ、他社との差別化を導いた要因と言えよう。ただ歴史とか実績に甘えての空気は微塵もない。より高い技術への取り組み、一級技能者の国家資格取得など、社員の技術レベルの優秀さも定評のあるところだ。顧客満足…というその目的の為に、全社一丸となっての研鑽体制が清々しい。

足利市福富新町726・30

サンユーエンジニアリング

『益者三友』受け継ぐ 信頼の技術屋集団

（論語の李子篇）で孔子は『益者三友』と言って良い友人の三つを挙げている。即ち「直き（正直な人）を友とし、諒（誠心な人）を友とし、多聞（もの知りな人）を友とする人は益なり」がそれだ。企業も全く同様で、直き・諒・多聞の取引先と社員を擁しているところはどんな時勢にあっても揺るぎはしない。逞しい挑戦精神と先見性によって必ず伸展してくるものだ。『益者三友』は企業成長の根幹でもある。

サンユーエンジニアリング㈱（代表取締役社長・上野 高道氏）は、エネルギー、薬品、化粧品、食品など、用途の異なるプラント設備全般の設計・製作から施工までを一貫して行う生っ粋の技術屋集団。大企業とはひと味違った精鋭が集い、切磋琢磨し合いながら、大組織にも決して引けを取らない技術力を有する技術の確かさ、高さが同社の頼もしい武器だ。中小企業にありがちな同族経営でもなく、社内はフラットで和気藹々。社員一人ひとりの強い相互信頼、チームワークこそが一丸となって〝いい仕事〟を目指す要因ともなっている。まさしく『益者三友』が如く、直き社員、諒なる取引先、多聞なる技術の統合で紡いだ良質の経営と言えよう。

「仕事は厳しい中にも楽しく行い、社員、家族、関係する人、ひいては全ての人が幸せになれるよう努力する」が経営理念の一環であり、1973年の設立から40年余の歴史を刻んだ今も変わることがない。サンユーの社名は『益者三友』にも通じる人が財産の基軸である。

目黒区上目黒3・6・16

カーセブンディベロプメント

〝俊敏奇警〟が動かす 自動車流通の新システム

（高杉晋作）は、維新の立役者の中でも「その俊敏奇警、右に出る者なし」と謳われた傑物であった。人心の機微をいち早く察知し、身分を問わず『志』のみを参加資格とした〝奇兵隊〟を創設。「礼儀を本とし、人心に背かざる様」をスローガンに有為の民衆を結集し、遂に徳川二百六十年の天下に幕を引かせた。企業も礼儀を持って事業に取り組みながら、時代の要請に対して常に〝俊敏奇警〟たり得たい。

㈱カーセブンディベロプメント（代表取締役社長・井上 貴之氏）は、メーカー や新車・中古車を問わず、自由にクルマ選びを楽しめるという、自動車流通を根底から変えるシステムを開発。自動車の小売と買取のFCチェーン『カーセブン』を運営している。自動車流通業界での実績・ノウハウに基づき、クルマの仕入れから販売まで、様々なプロセスで発生する中間マージンを極限までカット。さらに、グループの年間販売台数17万6千台という圧倒的な販売力が、同社の成長に勢いを加速させ、目を見張る伸展ぶりだ。基本的なサービスはもちろん、用品販売、ローン・保険等の金融サービスをはじめ、消費者に優しい商品・サービスの開発に余念がない。さながら高杉晋作の〝奇兵隊〟の如く、高い志をもったパートナー（加盟店）の賛同を得て、「クルマのことならカーセブン」という評価が日増しに高くなっている。これまでの常識を変えるクルマ選び、同社こそ〝俊敏奇警〟を地で行く究極の俊英グループだ。

中央区日本橋堀留町1・10・1

日本シーム

熟成の技術と大志 地球環境に貢献

（武田信玄）は「いかに時を急ぐとも春より秋には飛び越し難し」という言葉を遺している。功を焦って失敗することをたしなめた名言だ。仮に成功しても、春から秋に飛び越すようなやり方ではいつか必ず反動がくる。時間をかけて熟成した果実は、時期外れの促成栽培より断然味がいいもの。企業も焦らず、慌てずじっくりと力を培って着実に伸びてきたところほど、足腰が強く味（中身）も濃い。

日本シーム㈱（代表取締役・木口 準也氏）は、新規開発、製造を行うメーカー機能と、プラントのプロデュースから設置、試運転までトータルケアするエンジニアリング機能、自社製品及び他社製品のメンテを行うメンテナンス機能を三本の主軸としている正統派企業。プラスチック機械の専門メーカーとして、様々な製品の再利用、再処理を有効にできる手段を追求し続け、粉砕、混合、洗浄等のリサイクル技術開発に研鑽を重ねており、その高い技術力、先見性には定評のあるところだ。

「ゼロから機械を創造する精神を忘れずに…」という想いは、1979年（昭和54年）の設立以来揺らぐことなく今も社員に受け継がれ、同社成長の原点でもある。ゆえにまさしく「春より秋には飛び越し難し」が如く、決して派手さや規模の拡大のみを望まず、地道にコツコツと磨いてきた技術とそれに携わる社員を大切にしてきた。地球の環境問題という時代の趨勢を受けてもおり、同社の培ってきた実績と経験はより重宝されよう。

川口市安行北谷665

後藤裕二司法書士行政書士事務所

「幸勝なし」の業務遂行 白眉のプロフェッショナル

（曹操）の魏軍は「戦う毎に必ず克ち、軍に幸勝なし」と評された。その秘訣は曹操の戦い方にあった。第一は『孫子』の「勝算なきは戦うなかれ」であり、勝てるという見通しをつけてから戦いを挑んだことだ。第二は見切りどきの早さ、無理をしないことだった。そして第三は負け戦から必ず教訓を引き出して、同じ負け方をしなかったことである。

現代ビジネスに置き変えても学ぶべき点は少なくない。

後藤裕二司法書士・行政書士事務所（所長・後藤 裕二氏）は、不動産売買などの各種登記申請における手続きの代理、書類作成等を行う不動産登記業務に強みをもつ専門家集団。司法書士業務というのは地味だが、不動産売買という高額な取り引き及び買物をバックアップする重要な役割だ。ゆえに大手や老舗の事務所が鎬を削っており、新規に不動産売買という高額な取り引き及び買物をバックアップする重要な役割だ。客さまに接する心配り、気遣いのやさしい目の二つの姿勢がこれ所の真髄でもある。ちしたと言えよう。プロとして厳しく鋭い目と、お客さまに接する心配り、気遣いのやさしい目の二つの姿勢がこれ所の真髄でもある。

同所は着実に信頼を積み重ね、「後藤先生なら安心して任せられる」「知り合いの相談にのって欲しい」という声を弾みとしている。まさに「幸勝なし」の業務遂行で、やるべきことを成し、誠実にお客さまの懐に入って、キメ細かく対応する…基本姿勢こそがその実績を真打ちしたと言えよう。プロとしての厳しく鋭い目と、お客さまに接する心配り、気遣いのやさしい目の二つの姿勢が同所の真髄でもある。

目指すところは「日本一」という高い志も、スタッフ一丸となって前向きに取り組む強さの秘訣となっている。

千代田区丸の内1・8・3